



## 【参 考 資 料】

## 1 傍聴者からのご意見

傍聴にこられた方より、以下のご意見を頂戴いたしました。

(1) 平成24年4月27日（金）

【テーマ】小平3・2・8号線ができることで心配すること・期待すること

仲町 女性 30代

グループワーク時に一歩退いて議論に参加できなくなっていた人がいた。ファシリテーターは、誰もが話せるようにもう一工夫（声をかけるなり、全員を立たせるか座らせるか、皆が同じ立ち位置になるように）する必要があると思う。

聞かれないとしゃべれない人に対する気配りをし、より一層に多様な意見を出して欲しい。

しかし、全体的には和やかで賛成派・反対派での意見の対立もなく、皆が尊重し合っていて、わかりやすい進行でした。

小川町1丁目 女性 50代

模造紙に都市計画地図をプリントしてあるのはいいアイデアだと思います。事前の準備をていねいにしていたと感じます。お疲れさまでした。

住所記載なし 女性 50代

道路ができることで心配することはたくさん出され、グループごとにうまくまとめられていた。こういう形で全ての参加者が、意見や感想を出し、短い時間の中、有意義に行なわれたと思います。

この機会を生かして、計画に対しての取り組みが再確認されるよう望みます。お疲れさま！

津田町1丁目 男性 70代

参加者ガス抜きのみで終わるW. Sとならないことを強く祈ります。

始まったばかりですが、この試みは、今後の都市計画や行政の施策の進め方に大きな指針となるようなものになって頂きたい。玉川上水サミットの進め方もこの方法を採用入れられれば如何でしょうか。

仲町 男性 40代

行政が市民の中に入って、同じ目線で意見を聴く機会を設けるのは良いと思います。

反対意見が多い中で前向きな提案もあり、参加者自身も考えが整理されたと見受けました。

小川町2丁目 女性 40代

参加者の了承を得て、ワークショップの様子を（全て）録画記録してはどうか？できれば、それを市HPなどで閲覧できるようにして頂けると、参加できなかった人にも経緯が分かって周知効果もあるのでは？市にとっても貴重な（まちづくり）資料になると思う。

冒頭にこのワークショップを開催することになった経緯を説明すべきだったのでは？

各グループの発表シートを市役所ロビーなど誰もが見れるところに貼り出してみては？

花小金井 男性 20代

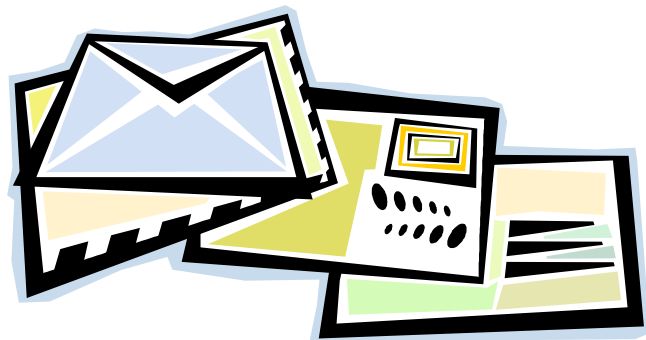
進行がスムーズで発表形式もシンプルですが、分かりやすく形としては素晴らしい環境だと感じました。

しかし、参加者に若者が全くいないことは深刻な問題です。「まちづくり」は流行りの分野でもあり、私の周りにも興味を持つ人は多いです。

- ・ Twitterアカウントで学生等を積極的にフォロー
- ・ 近隣大学や通学者に小平市在住者が多いと思われる大学へのワークショップの宣伝、周知
- ・ 市内公立高校への呼び掛け

等を5月分の傍聴に向けて早速取り組むべきだと思います。お年寄りの方ばかりであるワークショップの現状を、若者に実際に見てもらうだけでも大きな意味があります。

(2) 平成24年4月28日（土）の傍聴者からのご意見カードはございませんでした。



(3) 平成24年5月18日(金)

【テーマ】交通、環境などで心配すること・期待すること

1 仲町 女 30代

限られた時間の中で議論をすすめていくために、時間制限は必要だが、少し形式的にメニューをこなしているだけのように見えてしまう。

参加者から出された資料を皆で検証するという時間を15分でもとれていたら、もう少し全員(参加者、傍聴者、市職員)が、同じ情報を共有し、深い議論ができたのではないかと思う。

このワークショップをもっと市民に広く知ってもらわなければならないと思う。

市HPのイベントで検索したが、ヒットしなかった。

せめて、ここで出た意見や要望を市民、議会、都計審、市長に公表してほしい。

2 学園西町1丁目 男 30代

参加者に片寄りが目立つので、募集に問題があったのではと思われるが、辛い仕事であるのに職員の方々の対応も良く、市民の意見を聞くワークショップの方法的には良いものだと感じました。このワークショップで出た意見をどのようにまとめ、事業者へ伝える事ができるのか注見しています。

残念に思えたのは、両論併記するにあたり、そもそも道が通る事に反対の人の声で、道が作られた時にでも反映されるような意見が出るようなものなら、なお良かったと思いました。

3 津田町1丁目 男 70代

第1日目にも傍聴しましたが、これだけの時間と人数を使ってW. S 是非共生かして”使って頂きたい。

市としてのあり方を明確に決める材料の1つとして、位置づけて頂きたい。

“市民”のために何をすべきか?を下敷に進めて頂きたい。

このW. Sも市民のためのものと考えています。東京都との間にあって、さぞご苦労かと察しますが、宜しく。

あの緑の空間は、何としても後世に残しておきたい。残すべき宝物と考えています。

4 花小金井 男 30代

参加者の方々がイキイキと街について語り合っているのが印象的でした。街づくりの一つの手法として、ワークショップをうまく活用するのも、あり・・・かもと思いました。

## 5 津田町1丁目 女 60代

とても意義のあるワークショップだったと思います。

3・3・8道路について、今まで色々考えてきたことの集大成になっていると思います。漠然と考えていることが具体的に文章となったとき、大きな力を持つのではと期待しています。

私自身の3・3・8（3・2・8）についての考えは多々ありますが、一番大きいのは市の姿勢が問われているということです。

市独自のこの道路に対する考えを打ち出し”小平市民を守る”ということを第一に考えて頂きたいと思いました。引き続いてのワークショップに期待しています。

## 6 小川町2丁目 女 40代

毎回、出席しているが、賛成派の人がいないのでなぜ賛成かをきくチャンスがないのが残念。

賛成の専門家をよんでディスカッションしてもよかったのではないかな？  
ガス抜きの為のワークショップなら悲しい。  
傍聴者にもしゃべらせてもらえる場があるとよい。



(4) 平成24年5月19日(土)

【テーマ】

沿道の土地利用や周辺のまちづくりなどで心配すること・期待すること  
広域の社会や地域の産業などに対して心配すること・期待すること

1 津田町1丁目 男 70代

賛成の人が途中から来なくなったとの事。メンバー構成が、賛成・反対が各半々になるようなやり方を考えてほしかった。

小平市のVisionを明確にして、そのあるべき姿に対して、問題を解決する、施策を打って行く姿勢を持って戴きたい。

この会が実現した事に大きな期待を抱いています。是非共、今後も、このような方策を継続して頂きたい。

2 上水本町1丁目 女 60代

ていねいな討議を重ねてこられた皆さまに敬意を表します。市の職員の皆さま、ごくろうさまでございました。

この内容を十分市政に反映させていただきたいと思います。現在の小平の町を心から愛しておられる方ばかりのようにお見受けしました。30年以上前、小平に移り住んだとき、計画があることは知っていましたが、現実味がないままずっと過ごしてきました。最近になってから、この計画が実行されようとしていることを知りました。しかし、周囲を見渡してみてもよく理解し、納得している人はほとんどいません。府中街道があり、大して混雑もしていないのに、なぜもう一本道路があるのか。これだけのデメリットがあるのに。

財政の負担、省エネの時代的要請により、車は減るのではないかと。交通事故を少なくするためにまっすぐでない道路にしたという外国の例もあります。市民の声を十分聞いて下さい。

3 不明 女 70代

ワークショップの集約をどう生かすかが問題であって、その後の検討を住民参加で進行させる用意があるのか、ということが最重要とされます。

単に意見を聞いたという実績を残すためのものでは何の意味もないことです。今日までの話合いの中では、そういう心配が感じられます。ワークショップという形態もこの日程の中では正しかったのか疑問です。

市民の票を背負っている各議員がここでの結果を十分認識した上で、議会において十分な討議をつくって欲しいと切に願います。都に対しては具体的な案を持って要望に行ってほしい。

#### 4 小川町2丁目 女 40代

これに参加している職員の方自身もどのような考え感想をもっているのかきいてみたい。(気持ちの変化は?)職員の方が、小平市民の暮らしと命に心寄せて下さっていることを信じて。

都自らの基本方針にこの道路は反するものであるということを知ったのは、驚きだった。

“公益”とは何なのだろうか?本当に“公益なのだろうか?”誰かの命と暮らしとひきかえにする“公益”とは誰の為のものなのか?

今回のワークショップの内容(報告)を数回にわたって市報にも載せてほしい。HPだけではなく。

#### 5 不明 男 60代

市の市民と同じ位置にたった運営のもと多くの方が忙しい中、熱いくらい、話し合われていることに敬意を表します。

この結果が生かされるように、小平市や議会に今後の進め方を期待します。人口減少、少子高齢化、財政難の時代を客観的にみると府中街道の改良が現実的では?

この道路整備に賛成の意見が少ないのは何故か?市民の総意とずれているのか?(現状が一番)それとも道路優先、車優先の政策が時代遅れになっているのではないか?道路整備を推進する都や議会と都民、市民の間に意思のねじれが生じているのではないか?

都のパンフだけでは十分な情報が参加者に提供されているといえないのではないか?熟議民主主義のためには、賛成・反対両方の十分な情報が必要。双方の専門家の話を聴くことも含めたworkshopでないと、意見を出し合うだけで、深まらない。

道路も原発も道路交通需要や電力量がもう間に合っているのに何故つくりつづけるのでしょうか?待機児童対策の保育園など整備し、女性の労働力を増やし、少子高齢化社会に備えるような政策転換が必要ではないか。

## 2 記録画像

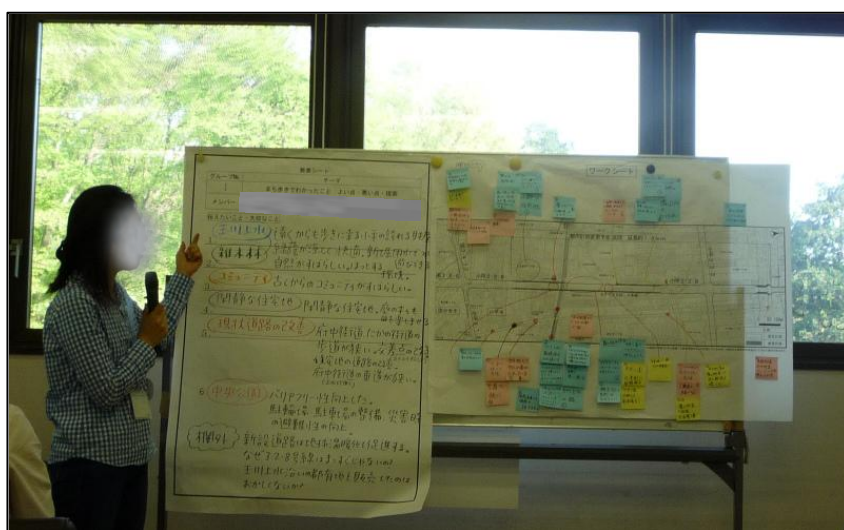
### (1) ワークショップの様子について



各グループでの  
話し合いの様子



グループ内での意見出し及び  
発表に向けての準備の様子



グループ発表の様子



## (2) まち歩きの様子【平成24年4月28日(土)実施】

